

に、適度にねぎらいの言葉をかけてあげることが大切です。

最後の別れの言葉を述べることを勧めるのもいいでしょう。最後に述べる言葉として、「5つのこと（すべてである必要はない）」をいうといいといわれています⁵⁾。

●最後の別れの言葉

- ・大好きだよ
- ・ありがとう
- ・もう気にしないで (forgive you)
- ・ごめんね (forgive me)
- ・私は大丈夫だから

●亡くなったあとの声かけ（感謝の気持ちを受け止め、医師も感謝を伝える）

患者が亡くなったあとには、家族は医師が提供してくれたケアに対して感謝の言葉を述べることでしょう。その際は謙遜することなく、「どういたしまして」というふうに感謝の気持ちをきちんと受け止めるといいでしょう。そして、その患者によって学んだこと、印象に残ったことなどを家族に対して述べ、医師もお礼を述べるといいかもしれません。例えば、「毎日お父様に対してお世話をしているご家族の姿をみて、本当の家族の愛とは何かを学ばせてもらいました。どうもありがとうございました」というようにです。そのことで、家族も少し救われる気持ちになるでしょう。

[植村健司]

あめいろぐ Conference

1. お看取りは、全部の医療を止めて患者を放置することではない
2. 「ゴールが何なのか」を常に意識し、検査や薬、処置の見直しを
3. 症状自体を治療対象として捉える
4. 多職種連携を活用して包括的なケアを提供する
5. お看取りでは、家族・介護者へのケアが特に大切
6. 予後は「範囲」で伝える



関連ブログ記事はこちら

1. 「アメリカでなぜ ACP が普及しているのか」
(<http://ameilog.com/nobukolapreziosa>)
2. 「入院患者すべてに延命の希望を確認 - 内側から見た米国医療 21」
(<http://ameilog.com/atsushisorita/2015/11/23/033937>)

●文献

- 1) トルストイ (著), 米川正夫 (訳). イワン・イリッチの死. 岩波書店. 1973.
- 2) UpToDate. Palliative approach to Parkinson disease and parkinsonian disorders.
- 3) Morita T, Tsunoda J, et al. Validity of the palliative performance scale from a survival perspective. J Pain Symptom Manage. 1999 Jul; 18 (1) : 2-3.
- 4) Fast Fact and Concept #3 : Syndrome of Imminent Death.
- 5) Suzanne Goldhirsch. Geriatric Palliative Care, a practical guide for clinicians : Chapter 19 Last Hours of Living. Oxford University Press, 2014.